



オートバイの勧め

会員

高野 裕之<56期>

皆さんはオートバイを運転したことがあるだろうか。清涼な高原のワインディングを、あるいは潮風薫る海沿いの道を、心地よいエンジンの鼓動を股下を感じながら風を切って走る爽快感を一言で表現することは難しいが、某自動車メーカーのキャッチコピーを借りれば、まさに「駆け抜ける歓び」そのものである。

実は、僕がオートバイに乗り始めたのはそれほど昔のことではなく、5年ほど前、実務修習中のことだった。好きな漫画の登場人物がハーレーに乗っていたことと、バイクに乗っている男は異性にモテそうに思えた、という不純な動機に基づく。また、タイミング良く（悪く？）当時弁護修習でお世話になっていた弁護士が元バイク乗りで、オートバイに乗りたい、という僕の話聞いて、バイク熱が復活し、仕事そっちのけで2人して1日中、中古バイク屋巡りをしたことを覚えている。

しかし、ハーレーは高値過ぎて手が届かず、しかもモテる前に結婚してしまったために、前述の動機は残念ながらいずれも未達成に終わった。ただ、中型免許だけは何とか取得し、250TRという、カワサキ製のレトロな単気筒のオートバイを3年ローンで購入した。それからというもの、休日にはあちこち走り回り、弁護士



になってからも、月に1、2回程度は往復半日圏内のソロツーリングに出かけている。東は房総半島、西は奥多摩や秩父、南は伊豆や箱根、北は赤城榛名あたりまでがカバーするフィールドだ。なぜ半日圏内か、であるが、これでも一応妻子ある身、旅の目的地を、早朝に出発すればその日の午前中に帰宅でき、午後は家族サービスに充てることができる半日圏内とすることは、妻の理解を得るための苦肉の策なのである。

他方、愛車のTRは、色々と手を加えた結果、原型をとどめず、同じオートバイに乗る人が見ても元々が同一の車体だとはわからない位になってしまった。僕にとっては何物にも代え難い、世界に唯一台のオートバイであったが、少し前にやむを得ない事情により手離してしまった。売却先の中古車屋へと走る道すがら、TRと共に走った道々の思い出が走馬燈のように蘇り、涙が止まらなかった。もっとも、1年半ほど前に大型二輪免許も取得し、TRとは別の大型バイクが仲間に加わっていたので、オートバイを降りたわけではないが。

バイク乗りの間でオートバイはよく馬に例えられる。現代の道を駆ける鉄の馬である。そして、人馬一体となってコーナーを走り抜けてゆく面白さにおいて、オートバイに勝る乗り物はないと思う。もしもオートバイの免許を取ろうかお悩みの方がいるのであれば、迷わず取得をお勧めしたい。そして、めでたくバイク乗りになられた方と一緒に、早朝半日ツーリングクラブを立ち上げたい。

なお、件の弁護士は自宅に置き場がない、奥様の反対にあったという切ない理由で未だにバイクライフを復活させることができないでいる。僕はといえば、たまにオートバイで事務所にお邪魔しては彼の羨望の眼差しを受け続けている。